

我ら先人に捧ぐ

7月11日鹿公園でアイヌ民族伝統儀式「第2回カムイノミ・イチャルパ祭」が厳かな雰囲気のもと行われました。この儀式は「神への祈り・先祖供養」の意を込めて、アイヌ刺繍が施された民族衣装に身を包み、太陽の神を始め13体の神を祀り、酒や料理で先人の魂を供養するものです。

交流会では、民族伝統料理の試食や鶴川アイヌ文化協会と札幌アンコラチ・メノコ・ウタラの皆さんによる歌や古式舞踊も披露されました



交通安全を願って

7月13日、北海道警察交通安全教育隊を招いて「こども園の園児」と「高齢者」を対象に交通安全教室が開催されました。こども園では婦人警察官と腹話術人形の「アンディー君」のやりとりに、参加しながら交通ルールを学べる楽しいメニューで子どもたちは元気な声で答えていました。午後からは35名の方が町民センターに集まり、道路に見立てたマットの上を歩くと、

大型プロジェクト画面上でアニメーションの画像が動く「高齢者歩行者教育システム」等を使った教室が実施され、画面上の車を見ながら道路横断の仮想体験や、参加者の歩行データ（速さ）を使



い速度の違う車に置換えると渡りきれる場合や事故になってしまう等のシミュレーションで、「だいたいようぶと思っても条件によっては事故の危険性」があることの説明を受けていました。



ぬくもりのある町づくりを目指して

7月16日第58回胆振婦人大会が町民センターで開催されました。管内の婦人団体関係者約350名が参加し、研修や歓迎アトラクションなどで交流を深めました。

北海道生涯学習推進センターの阿部隆之氏を招き「ぬくもりのあるマチづくりと団体活動」と題し自身のリーダー活動経験を通して取り組む町づくりなどについて講演。また、ストリートパソーマンズグループや民謡などアトラクションも披露されました。



今年の出来栄は

安平町の畑のうち飼料用作物を除くと30%以上を作付している秋まき小麦の収穫が7月下旬から8月上旬にかけて行われています。収穫された小麦はほとんどが追分・早来にある米麦乾燥施設に持ち込まれ、乾燥や調整を行い製品となります。麦の出来栄は収穫時の天候にも大きく左右されるため農家の方は今まで育てた麦を最高の状態で刈り取りできることを願いながら作業を進めています。

